

活動報告書

報告者氏名: 田中 静子 所属: 八戸市東中学校 記録日: 2015年2月8日

【対象児の情報】

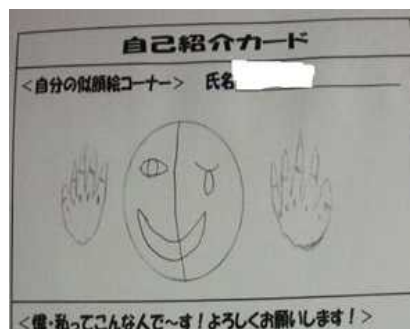
- ・学年
中学校2年生男子
- ・障害名
アスペルガー症候群 高機能自閉症
- ・障害と困難の内容
二次障害を発症。大人数の中にいるとストレスがたまり、フラッシュバック・暴言・他害行為・解離性症状が現れる。自分自身の心情、内面について表現することを拒否しており、本人の悩みや困っていることが周囲に伝わらない。

【活動目的】

- ・当初のねらい
自己表現することの楽しさを体験することにより、自分自身のよさに気づき、自らの考えていることや気持ちを他者へ伝えられるようになること。
- ・実施期間
2014年6月～2月
- ・実施者
田中静子
協力者 中園一輝(特別支援学級担任) 田中友也(特別支援アシスタント)
- ・実施者と対象児の関係
学年主任・国語科担当者

【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況
入学時～7月 他人に自分の気持ちをつたえることについては拒否している状況。教員も状況がつかめず、突発的に暴れたときに制止することで対処していた。
1学年8月 通院治療開始、特別支援学級通級開始。
1学年12月 特別支援学級正式在籍。他害行為については沈静化がみられたが、相変わらず、自分自身の心情については語らない
2学年4月～5月 安定している。特別支援学級に新入生を迎え、粘り強く面倒をみる姿が見られるようになる。
2学年6月 梅雨に入り低気圧の際、頭痛を訴え、心身の状態が不安定になる。他害行動が見られるようになる。自らの心情については語らない。



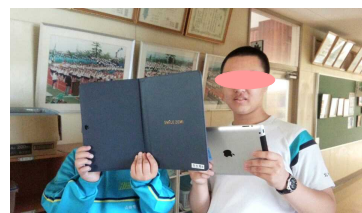
〈2014年4月の自分の似顔絵〉

- ・活動の具体的内容1 「好きな物を写真に撮って、教えよう」 2014年6～7月

(写真・カメラ機能使用)

身の回りから自分の好きな物を選択し、タブレットで写真を撮る。「好きな物」という課題により、楽しく自由に選択させることで本学習への意欲をもたせ、自分の思い(好き)を表現させることをねらいとした。

1時間目「校内で自分が好きなもの、面白いと思ったものをタブレットで写真に撮ろう。」というテーマで、タブレットを持って校内を自由に回った。



2時間目は「好きな物を教えよう」というテーマで、前時に撮った写真を教師や友だちに見せながら、説明するという活動で、自分の作品を通して自己表現したいという意欲を高めることをねらいとした。

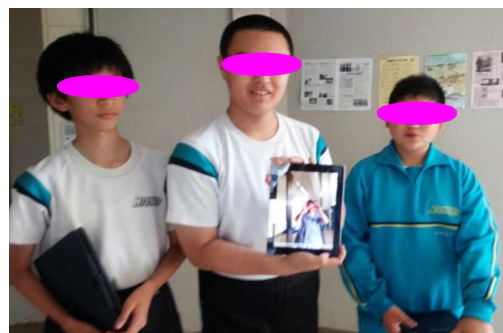
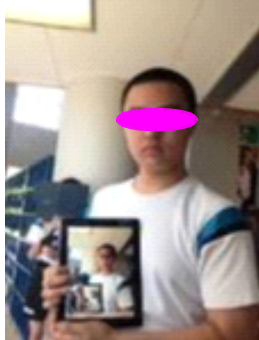
・対象児の事後の変化1

①はじめは撮ってみたいという興味から被写体を探していた。・・・作品1



〈作品1 久しぶりに会ったアロエ〉

②活動の中で鏡を撮ることでタブレットの機能に自ら気づいた。・・・作品2・写真1



作品2・・・タブレットと鏡を用いることで何人もの自分が写真の中に映り込むことに気づき、できた作品。

※写真1・・・実施者が写真を撮っていたところ「先生も一緒に写りましょう。」と言って、タブレットに姿を映し出してくれたもの。

〈作品2 4人の僕〉

〈写真1※ 先生も一緒に〉

③それをきっかけに面白い物を撮りたいという意欲が湧き、自ら友だちと協力して作品を作り出すという活動に推移していった。・・・写真2・作品3



〈写真2 友だちと協力して撮影する様子〉



〈作品3 巨大なY君〉

④写真を撮ったことで「作品を見せたい。教えたい」という気持ちが起こり、自己表現したいという動機づけとなった。また、撮ってすぐ相手に提示できることから、視覚的情報を相手と共有でき、自分の説明したいことが的確に伝わるなど表現を容易にし、他者からの反応・賞賛を得られやすく、伝えることが「楽しい」という実感が持てたようであった。以後、考えていること・悩み・困り感を実施者やサポーターに伝える場面が少しずつ増えていったという点で有効であった。

2学年7～8月

他害行為に及ぶ際、それまでは無言だったが、この活動後、「友だち欲しい」「人間なんて、変らない。」「(自分が困っていることについては)しても仕方がない。」などの発言が聞かれるようになる。活動と関連性については明確ではないが、このことは対象児を理解する上では貴重であった。

2 学年 8 ～ 9 月

市教育委員会より指導が困難と判断され、2 学期より、特別支援アシスタントが増員される。学年で実施した職場体験は「人と接するより、自然と接する方が自分には合っているので、農業をやりたい。」との本人の希望により、農場を持つ障害者支援施設での体験が実現した。



〈活動記録 職場体験した農場のジオラマの製作〉

2 学年 1 0 月

他害行動、破壊衝動の頻度が 1 0 日間に 4 度と非常に増加し、制止した教員がけがをするなどの状況が発生。通常の通学が困難となる。「他の人が居ない所で静かに勉強する形で、通学は続けたい。」との本人・保護者からの提案・希望により、時間をずらし、別室でサポーターの支援を受けながら教材提示型タブレット（他社）を活用した学習を中心に進めることとなる。主治医より別の薬が処方されたこと、学校内で大人数と接する機会が激減したことにより、現在（1 1 月～2 月）他害行為は沈静化している。

2 学年 1 0
～ 1 月

特別支援アシスタントに対し、「『好き』とか『幸せ』という感情が分からない。」「自分は心（暴れるときの気持ちの塊）と魂（自分の気持ち）が離れている。」など自分の考えや生き方に対する悩みを発言するようになる。同時に「人間は自然界には存在しない方がいい。」「人間には 3 大欲求の他に殺したいという欲もあるように思う。」というような不穏当な発言もあることから、楽しく命を慈しむことができるような日々の活動（植物栽培・亀の飼育）を取り入れる。



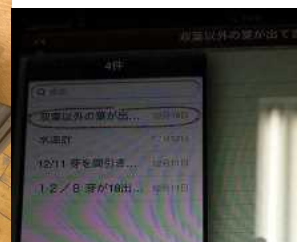
〈活動記録 亀の飼育〉

・活動の具体的内容 2 「自分の作品や学習活動を記録しよう」2014 年 10 月～2015 年 2 月
（写真・カメラ メモ機能使用）

「好きな物を写真に撮って、教えよう」の学習活動以降、写真に対する肯定的イメージがあるようで、実施者が「写真に撮ってはどうか」と声をかけると前向きに取り組む。また、記録は鉛筆よりタブレットやキーボードでの入力の方が負担感が少ないということで、自らメモを使用した。継続的に記録をとることで自らの働きかけにより、植物や動物が成長・変化していく様子を気づかせ、命に対し、慈しむ気持ちを育むことがねらいである。



〈活動記録 大根の栽培〉



〈成長記録のメモ〉

・対象児の事後の変化 2

作品づくりや学習活動の蓄積が視覚化されることにより、活動への意欲付けになった。出来上がったペーパークラフトやジオラマを写真に収めるときに「疲れるけれど、こういう（細かい）作業は嫌いではない。」などの発言も見られ、自分の得意とすること、好きなことを伝え



るきっかけとなった。制作中は集中し、ほぼ無言であるが、完成しカメラに収めるときは達成感を感じるようで、笑顔である。また、生き物（植物・小動物）を世話するときは「今、えさあげるからね。」などと話しかけるなど生き物を慈しむ行動がみられるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ① 写真を撮るという行為が、撮った写真を誰かに見せたいという気持ち呼び起こし、対象児にとって自己表現への意欲付けやきっかけになる。
- ② 写真を提示して伝えることにより、自分の意図を的確かつ容易に表現することになり、肯定的な反応が得られ、表現することへの抵抗感が減り、「伝えたい」「分かって欲しい」という気持ちが高まった。
- ③ 「（家族以外の人には）伝えても仕方がない。」から、「話してみよう。」という気持ちの変化が起こった。

・エビデンス

○気づき①に関するエビデンス

他害行為に及ぶ際、それまでは無言だったが、この時期は、「友だち欲しい」「人間なんて、変らない。」「（自分が困っていることについては）話しても仕方がない。」などの発言が聞かれるようになる。さらに、写真撮影の際、対象に対する思いが「疲れるけれど、こういう（細かい）作業は嫌いじゃない。」「（ペーパークラフトのシーラカンスの）頭が複雑でむずかしい。」「（大根の）本葉が出てきているんですよ。」等の発言となって出てくる場面も多い。

○気づき②に関するエビデンス

攻撃的な発言が出ていた不安定な日（10月上旬）に、実施者がこれまで見られた対象児のよい行動を実例を挙げて褒めたところ、「褒められたくない！」と叫び暴れ出した。その後母親に「『褒められたこと』を『信頼して裏切られた記憶』に転換してしまった。」と話した。「本当は褒められたかったはずです。」（母親談）

上記の1週間後「心の教室相談員」に話を聞いてもらいたいと申し出る。

別室への時間差登校が始まり、ストレスが少なくなってくると、信頼できる人間への生き方や自分の内面についての相談が増えてきた。

【日々の記録より】

- 10/15 「毎日、悪夢を見る。」と訴える。
- 10/20 「『幸せ』『好き』という感情が分からない。」と訴える。
- 10/3 「先生は心（暴れるときの怒りの塊）と魂（自分の気持ち）が離れていることありませんか。」とアシスタントに問う。
- 11/1 「自分は頭の中で『何のために生きるのか』ということや『自分の心の闇』について常に考えているから、頭がいっぱいで勉強が頭に入らない。」と訴える。（その後、瞑想状態になり校内を徘徊する。暴れることはなかった。）
- 12/3 「特に欲しい物はないが、できるなら他の人に迷惑をかけずに死にたい」とえる。

○気づき③に関するエビデンス

【日々の記録より】

- 10/2 主治医のアドバイスに従い、他害行動に及ぶときに感じる「怒りの塊」を絵に描いてみる。
「幸せ」「好き」という感情が分からないと発言する。
- 10/2 「（アシスタントの修正テープを）折りたい気持ちになっている。」とアシスタントに伝える。その日は足早に帰宅した。
- 10/3 「先生は心（暴れるときの怒りの塊）と魂（自分の気持ち）が離れていることありませんか。」とアシスタントに問う。

- 11/7 学年行事「盛岡自主見学」に参加した際、帰りのバスで「薬が切れまして。もう無理です。」と学級担任・アシスタントに申し出ることができた。
- 11/1 「漢字は将来役に立つのか？何か役立つ話を聞かせて欲しい。」とアシスタントに頼む。

上記の他に、主治医に対し「自分には他の人にある必要な何かが欠けていると感じる。」と話したり、将来のことについて話すことが増えた。勉強に対する意欲も徐々に高まり、苦手の漢字練習(タブレットを使用)に自ら取り組むようになった。

・その他エピソード

2月11日(水)地元で開催された「はちのへ朝市ロボコン市場へGO!」に自らロボットを製作して、友人と参加し、優勝することができた。ロボット製作への情熱は目を見張るものがあった。製作の過程をこれまでの静止画に加え、動画でも撮影。また、タブレット学習の傍ら、ロボット製作に関わる理科や技術への授業に自ら希望し参加した。



また、人と関わりを持ちたいという気持ちも強まり、国語の「百人一首」、体育の柔道、家庭科の調理実習にも自ら希望して参加した。さらに、「自分はみんなに嫌われているのではないか。」と悩む適応指導教室に通う生徒に対し、「欠点のない人間はないし、全ての人に好かれている人間もない。そんな人間がいたら、会ってみたいものです。」と冷静に(?)励ます場面も見受けられた。

自らも他者との関わり、自分の生きづらさに悩み、苦しむ中、心情を言葉にできはじめたことによって、少しずつではあるが、前進できていることを本人も実感し始めたようである。